連、JA県農とっとり、J | 強化するとともに、 県本部 出す新生「全農」は、 する。歴史的な一歩を踏み A島根経済連が一日、合併 | 体制で地域性を発揮した事 JA全農とJA宮城経済 | 本部を中心に事業競争力を | ○○○年度末までには、半 全国 | 第二次統合の時期とする1 | 参加県の拡大を打ち出し 業運営に乗り出す。全農は、 一の効果を発揮するため統合 指すことにしているが、そ 数程度の県連との統合を目

昨年六月の臨時総代会で 一年三月の二回に分けて、 半数程度の県連と実現す 「1000年四月と1100 めていくことにした。 をさらに高めるためには、 かし、全農では「合併の効果 る」ことを確認している。し 合することが必要」とし、各 合参加県の一層の拡大を進 県連と積極的に協議し、統 - 期により多くの県連と統 第二次統合については、 (関連記事5面に

## JA全農の本橋元会長は三十 本橋全農会長に聞く 敬意を表した。

第二、第三の合併を加速させた 期に成果を発揮し、(県連との) 日、日本農業新聞のインタビュ その一つが「事業競争力を強く 意を示した。新生全農が目指す 三県連との合併にあたって「早 い」と事業・組織改革に強い決 ーで、全農と宮城、鳥取、島根 られるかどうかにかかってい るものがある」とし、段階的な 元できるものと、二一三年かか 削減などで、成果を組合員やJ る」と指摘。さらに、「コスト 合員に信頼される経営を確立 JAが将来にわたって、農家組 Aに還元していくが、 すぐに還 し、農業振興を支えながら伸び 合併の効果については「単位

せた。

三月には、三県連以外の県連との合併を夢定しているが「地域の合併を夢重しながら、少なくても過半数の県連との合併を実現したい。この取り組みでJA改革の大きな流れを作れば、二元し、「それだけに全農の責任はますます重い。今後も失敗ははますます重い。今後も失敗はおされない」とした。

統合予定県連のうち現

事項を審議する合併委員会 | ○○○年の早い時期に合併 ジュールなど検討。これを | 県連とは、遅くとも今年中 担や地域特性を生かした合 踏まえ、合併に向けた必要 | には個別研究会を設け、| 理的な事業方式のあり方、 A、統合連合組織の機能分 | 月統合を目指す県連とは、 に順次移行する。 経営計画、統合までのスケ | 二〇〇一年三月統合予定の 個別研究会では、合併J | 期を見据え、二〇〇〇年四 九九年の早期に合併委員会 を設置する予定。さらに、

全農では第二次統合の時一取り組んでいく。 委員会が設置できる方向で

## 8

るように全力を尽くす姿勢を見

立ち上げるため、日程調整 新たに数県連が同研究会を 研究会を設置。年内中には 島、高知の九県連では個別 潟、岡山、広島、山口、徳 在、山形、庄内、栃木、新

に入っている。

がらも早期にメリット還元でき

取り組んだ三県連の関係者に対 し、メリットを組合員、JAに

還元することだ」と強調し 敗は許されなかった。先駆けて 変化に対応するものであり「失 は、JAを取り巻く事業環境の 全農と三県連との合併実現

この間の努力に対して最大限の して、頭が下がる思いだ」と、